

令和2年度の校内研修について

1 研究主題

自ら考え判断し、行動できる児童の育成 ～防災教育を通して～

2 主題設定の理由

今年度より、高知県学校安全総合支援事業に係る「高知県実践的防災教育推進事業」の研究指定を受け、防災教育を進めることとなった。

南海トラフ沿いの大規模地震は過去1400年間に約100年～200年の間隔で発生しており、今後30年以内のM8～M9クラスの地震発生確率は70%～80%とされている。昭和東南海地震(1944)・昭和南海地震(1946)の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態である。

甚大な被害と多くの犠牲者を出した東日本大震災から9年、南海トラフ地震における予想被害は決して少なくない。本校周辺でも地震の規模はM8～M9クラス、震度7と予測され、海岸線への津波高1mの到達時間は4分程度、津波の最大値は黒潮町と同様全国最大の34mと予想されている。

本市では全ての学校で防災学習を計画的に進めているが、本県防災意識調査結果と同様、家庭や地域の災害時における防災・減災意識や家具固定等の防災対策については、まだまだ十分であるとはいえない。また、地震発生時における初期対応や避難後の行動・生活についても、さらなる具体的な想定が児童、教職員ともに必要だと考える。

そこで、今年度は「自ら考え判断し、行動できる児童の育成 ～防災教育を通して～」という研究主題を掲げ、防災・減災意識の向上、地震発生時の初期対応、避難後の行動や避難生活時の判断力等を養っていく。また、本事業の拠点校となる本校を中核として、先進的・実践的な防災教育の手法や地域連携の在り方等を研究し、実践委員会を中心に、これまでの拠点校や地域の方々の助言を仰ぎながら取組を充実させていく。さらに、市内の人々が自らの命を守れるよう、児童からの情報発信が地域や市内全域へと展開できる体制を整えていく。

以上のことを踏まえ、拠点校として2年間で研究を進めていく。

3 研究内容

※別紙、安全主任より

※別紙「令和2年度 研究部会の取組」参照